

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-35

部門名：地域とともにある学校実践部門	エントリー名：静岡県立榛原高等学校
活動名：HAF PROJECT ～地域との協働による課題解決型学習～	
解決すべき課題：地域活性化と人材の還流	
1 地域の変容（少子高齢化、人口減少、人口流出、外国人の増加など） 2 生徒の実体験の不足（過疎化の進展、公共交通機関の不足、閉ざされた環境での生活など）	
目標・方針：時代の変化に柔軟に対応する教育を実践し、次代を担う有為な人材を育成する。	
1 持続可能な社会の形成者の育成 2 金融経済教室を踏まえたフィールドワークと地元企業の分析 3 地元首長の出前授業による地域課題の認識と主権者教育の推進 4 台湾研修を通じたグローバル教育の推進	
活動内容：実社会とのつながりを意識し、確かな学力と批判的思考力を育成する活動の展開。	
1 出前授業（牧之原市長、地元企業、野村ホールディングス金融経済教室など）によるインプット 2 グループワークによる協働（課題探究のためのテーマ設定）、フィールドワーク（地元企業の事業所訪問、希望者による台湾（地元企業海外事業所訪問、台湾茶文化学習）研修）などのアクティビティ 3 レポート作成、教室内での学習成果報告、学習成果報告会（牧之原市役所）などによるアウトプット 4 地域を知り、世界に目を向ける人材の育成（持続可能な社会システムの構築）によるアウトカム	
活動の成果：今まで、他人事として捉えていた課題を、自分事として考えられるようになった。（卒業生より）	
1 平成 30 年度「総合的な学習の時間」アンケート（1 年生対象 n=241）結果より ・この学習を通じて、物事を対話的・協働的に考えられるようになった。 肯定的評価 92.2% ・この学習を通じて、地域社会の課題について理解を深めることができた。 肯定的評価 91.7% ・この学習を通じて、自己の成長を感じることができた。 肯定的評価 80.5% 2 平成 30 年度「総合的な学習の時間」アンケート結果（自由記述 抜粋）より ・この活動を通じて、協力の大切さ、重要さが少しわかった気がする。 ・この学習で、さまざまなことをやり、良い経験となりました。この学習で学んだことを、今後の生活に生かしていきたいです。	
【平成 30 年 3 月実施生徒アンケート（1 年生）結果より】	
アピールポイント（アイデアや工夫）：社会に開かれた学校の実現	
1 学校外の人的資源を学校教育に活かすことで、教員の苦手な分野などを補うことができる 2 地元自治体や首長との協働で、行政機関との間で、さまざまな課題を共有することができる 3 企業と連携したフィールドワークにより、実社会との繋がりを意識したキャリア教育を実践できる 4 学習成果報告書の作成と学習成果報告会（模擬請願）の実践により、学んだ知識・技能を実際に活用することができる	

HAF PROJECT ～地域との協働による課題解決型学習～

情報のインプット
（学校外の専門家による出前授業）

アクティビティ
（GWによる協働学習とFW）

HAIBARA ACHEIVING FUTURES PROJECT

研究成果のアウトプット
（学校内外で学習成果を報告）

アウトカム
（人材の還流を通じた持続可能な社会の形成）

大学、大学院を卒業した卒業生が、地域活性化に目を向けてくれるような取り組みを行っています！

アウトカムは未来の牧之原です！

◎ **情報のインプット**

		
牧之原市長出前授業	企業人講話（伊藤園）	金融経済教室

◎ **グループワークによる協働による学習の深化**

		
講演会会場でのグループワーク	企業人講話時のグループワーク	パソコン教室での協働作業

◎ **アクティビティ**

		
高大連携を兼ねた企業訪問（青山学院大、TDK）	企業訪問（はごろもフーズ）	台湾研修（台湾矢崎）

◎ **アウトプット**

			
市役所学習成果報告（模擬請願）	島田信用金庫高校生地方創生発表	台湾研修報告会（校内発表会）	主権者教育（県議出前授業）